※公式ホームページでは施設情報のほかイベントやブログを発信しているほか、旭山動物園だより・あさひやまどうぶつえんみにだよりなど各種発行物を pdf でダウンロードすることができます。

【2024年度･夏期開園期間】 4／27～11／3(日)
【開園時間】 午前9:30～午後5:15(最終入園は午後4:00まで)、
10／16(水)～11／3(日)は午前9:30～午後4:30(最終入園は午後4:00まで)

公式ホームページ

旭山動物園だより

発行所
旭川市旭山動物園
動物図書館
☎0166-36-1104

北海道産動物舎で エゾライチョウが観察できます！

８／１から北海道産動物舎でエゾライチョウが観察できるようになりました。このエゾライチョウは卵の状態で保護されてきました。孵卵器に入れた卵は６／１８にふ化。生まれたヒナはバックヤードで飼育していたのですが、だいぶ大きくなってきたので、放飼場で過ごすことになりました。現在、放飼場に出ているのはオスの個体です（メスはバックヤードにいます）。ぜひじっくり観察してみてくださいね。

※写真は担当者が撮影

生まれたヒナは、眼があいており、自由に動くことができます

←驚いたり、威嚇するときは、頭の上の羽毛「冠羽」を立てます。「冠羽」はオスにもメスにもあります

9／1撮影

エゾライチョウってどんな鳥？

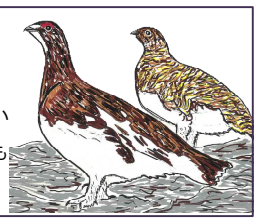
北海道の低地から山地の針葉樹と広葉樹の混合林のやぶの多い場所を好む留鳥（一年中同じ地域にいる）でキジ科の鳥。体長（クチバシの先から尾の先までの長さ）は 36 cmほど。食べものは樹木の芽や枝、葉や種子、果実。幼鳥のときには昆虫も食べます。
頭には「冠羽」があり、眼の上には赤い「肉冠（まぶたのようなもの）」があるほか、脚には羽毛がはえています。喉から首にかけて黒い羽毛があるのがオス。ライチョウと聞くと、冬のまっ白な羽毛に覆われた姿を想像しますが、エゾライチョウは白くなりません。

眼の上の「肉冠」が赤いのはオス･メス共通

脚には羽毛がはえていますが、指の部分にははえていません

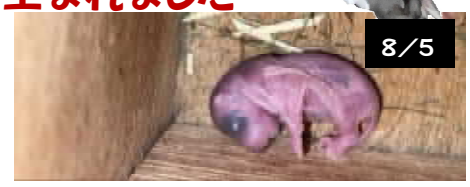
喉から首にかけて黒い羽毛になっているのがオス（左）

ライチョウ(夏)→
本州中部の北アルプス、南アルプス、新潟県の一部の山にいるライチョウ。 冬になるとオスもメスも白い羽毛に覆われます



エゾモモンガの子が生まれました

７／３０、「エゾモモンガ舎」で、エゾモモンガの出産が確認されました。生まれたばかりのエゾモモンガは、毛もはえていなく、大きな眼もあいていないのですが、滑空するための飛膜を確認できました。生まれて１か月目には成獣を小さくした感じにまで成長。巣箱から出てくる日が待ち遠しいですね。


8/5

9/4
※写真は共に担当者が撮影

アムールヒョウの子が生まれました

８／２４の夜、アムールヒョウの「みらい」が出産しました。暗い産室を映すカメラには「みらい」が子を舐めたり、くわえて移動させる姿などが映っていました。子育てもしっかり行っており、子は順調に育っていて、眼もあきました。「みらい」の子育ても忙しくなりそうです。

8/24
←みらいの頭

9/5
※写真は共に担当者が撮影

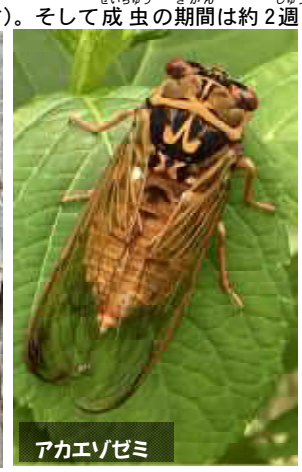
実りの秋は栄養補給の季節。冬の過ごし方を考える季節です。

暖房器具のCMがながれる季節になりました。冬の準備などまだ早い９月に入ってすぐ、成虫で越冬するクジャクチョウを園内で観察しました。彼らは成虫のので木や建物のすき間などで越冬します。同じチョウの仲間のキアゲハはサナギで、コムラサキは幼虫でクスサンは卵で越冬します。
鳥類やほ乳類など寿命が複数年ある生きものは年に一回の越冬ですが、寿命が短い昆虫の越冬は一生に一回。今年はどんな冬になるのでしょうか。エサが捕れなくなる冬、食べものが減る冬、「去年の今頃」をわかる生きものは、もう冬の準備に入っているかもしれません。野生の生きものたちは忙しい秋をむかえます。

今年はたくさんいました＆鳴いていました！　園内で観察できた夏のセミ！

6月末、園内でニイニイゼミとエゾゼミが鳴き始めました（鳴くのはオスだけ）。７／２には羽化したてのエメラルドグリーンの翅が幻想的なエゾゼミの姿も観察できました。ほか、アカエゾゼミやコエゾゼミも観察することができました。姿は確認できませんでしたが、ミンミンゼミやアブラゼミ、ツクツクボウシも鳴いていました。アカエゾゼミ・コエゾゼミ・エゾゼミの 3種のエゾゼミは冷涼な地域に多い種、アブラゼミ・ツクツクボウシ・ニイニイゼミ・ミンミンゼミは高温な地域に多い種と言われています。高温な地域に多い 4種のセミ、今年は園内で多く鳴いていたように感じました。セミの生息域が北へ広がってきているようです。
※セミはサナギの期間がない「不完全変態」の昆虫で、幼虫期間は地中の木の根から樹液を吸い、脱皮を繰り返して成長。ツクツクボウシは羽化まで１～2年かかるそうですが、ほとんどのセミが羽化まで２～５年かかるそうです（7年と書いてある本もあります）。そして成虫の期間は約２週間です。カメムシの仲間です。

エゾゼミ


アカエゾゼミ

コエゾゼミ

ニイニイゼミ

インドクジャクのヒナが生まれました

９／３、「クジャク舎」左奥上の巣で、クジャクの卵がふ化。
ヒナが生まれました。
クジャクのヒナもライチョウのヒナ同様、生まれてすぐ眼があいており自由に動くことができます。
ふ化後5日目に親子を観察しに行ったときには、4m下の地上で親について歩いていました。
「あんなに高いところから飛び降りるんだ…」とヒナの生きる力に感動させられます。ぜひ親子の様子を観察してくださいね。

9／8撮影

旭山動物園の公式ＳＮＳ（X、Instagram、Facebook）では園内の動物の日々の様子や出来事、ニュースや園内行事の告知・報告など、いろんな情報を配信中です。